

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 大島 啓嗣

論 文 題 目

Dexmedetomidine provides less body motion and respiratory depression during sedation in double-balloon enteroscopy than midazolam

(デクスメテトミジンはダブルバルーン小腸内視鏡検査において
ミダゾラムよりも少ない体動と呼吸抑制をもたらす)

論文審査担当者

名古屋大学教授

柳野立人



主査委員

名古屋大学教授

小寺泰弘



委員

名古屋大学教授

西脇公俊



委員

名古屋大学教授

徐平実



指導教授

別紙1-2

論文審査の結果の要旨

ダブルバルーン小腸内視鏡検査(DBE) 時におけるデクスマデトミジン(DEX)による鎮静の効果を前向きに調査し、以前に使用していたミダゾラム(MDZ)による鎮静の成績と比較し DEX の有用性と安全性について検討を行った。結果、DEX による鎮静を行った群では、体動と呼吸抑制は有意に少なく、血圧低下・徐脈については有意差を認めなかった。プロペンシティスコアマッチングによる検討であること、DEX 群と MDZ 群で麻酔深度の測定方法が異なること、鎮静剤・鎮痛剤の投与基準が異なり DEX 群で鎮痛剤の量が多くなっていることの 3 点の limitation はあるが、今回の結果は DEX により DBE 時の体動と呼吸抑制を減らすことができる可能性を示した。

本研究において、以下の点を議論した。

1. 上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影術、内視鏡的胃粘膜切開術(ESD)において鎮静の有用性を示す報告はあるものの、DBEにおいて報告はなかった。また、ESDにおいては検査時間の短縮・鎮痛剤の減量に繋がった報告があった。DEX の非挿管における処置に対する鎮静の保険適応となった後、DBE に対して導入を試み、体動の低下を感じられたため、今回の前向き研究を開始した。
2. 小腸内視鏡検査における疼痛については内視鏡の喉頭通過する時と、深部小腸挿入時の体動症例において、挿入操作やループ解除などの腸管に刺激を行うと体動を生じやすく、操作を中止している時には体動が低下することより、内視鏡操作により疼痛が起きていると判断された。
3. MDZ 群として用いた 2014 年のデータは検査前に用意したペンタゾシンが 15mg と減った為、その影響がある。また、DEX 群では導入時に 15mg を使用している。レスキーで必要とした量を比較すると、有意差は認めない。本来はそこを揃えて比較するべきであるが、今回は対象が過去のデータであるため、このような結果に繋がったと判断する。投与方法を揃えたランダム化研究にて評価することが望ましく、海外では DBE 時にプロポフォールを用いて鎮静されている為、それを含めた三剤での試験を検討していた。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	大島 啓嗣
試験担当者	主査	柳原 伸一	小寺泰之	西脇公俊

指導教授 後藤 真実

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. デクスメデトミジンを用いた他の内視鏡検査の鎮静の効果と安全性について
2. 小腸内視鏡検査における疼痛について
3. デクスメデトミジン投与群におけるペントゾシン投与量がミダゾラム群よりも多かったことについて

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。